

4/18 ルカの福音書 24 章 33-53 節「なぜ取り乱すのか」

小池宏明牧師

ルカの福音書 24 章の最後は、主イエス様が復活された夜の出来事である。

*主は確かによみがえられた

弟子たちは集まり、シモン・ペテロに主イエス様が現れたこと、エマオ途上で、主イエス様が聖書を説き明かし、食卓でパン裂きをされたことなどを話し合っていた。その時 36 節「これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、・・・」主イエス様ご自身が現れたが、弟子たちは、37 節「彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。」弟子たちは、実際によみがえられたイエス様が現われると、信じられなくて、おびえて震え上がり、お化けが出た、と驚いてしまったのだ。このような疑いに対して、イエス様は、平安があるように、取り乱すことがないようにと、語りかけ、ご自分のお身体を差し出して見せて下さった。そして、焼き魚を食べて、身体によみがえりを明らかにされた。すなわち、主イエス様は、キリスト者の集まりの真ん中に、私たちの生活の場の中心に居られることを証しされたのである。今現在、助け主なる聖霊様が、私たちのところに送られて、イエス様が、いつも、私たちと共におられることを明らかに示して下さっている。私たちキリスト者の生涯も、肉体の死をもって終了するわけではない。パウロが記したエペソ人への手紙 2 章 4-6 節「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちがともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。」私たちキリスト者は、キリストと共に、「よみがえる」のだ。主イエス・キリストの復活は私たちの「死後の世界」と直結している。主の復活が無ければ、私たちの死後は絶望しかない。

*主の証し人として

48 節で、主イエス様は弟子たちに語られた。「24:48 あなたがたは、これらのことの証人となります。」主イエス様が繰り返し聖書を説き明かされたことを、今度は弟子たちが受け継いで証し人になるように求めておられる。ルカの福音書の続編は、「使徒の働き」である。弟子たちがキリストを伝える歴史が記録されている。弟子たちは、福音を世界に証しする者へと変えられた。私たちもキリストの弟子であり、現代の「使徒」たちなのだ。よみがえりの主と共に、疑わず、主の証し人として歩んで行こう。